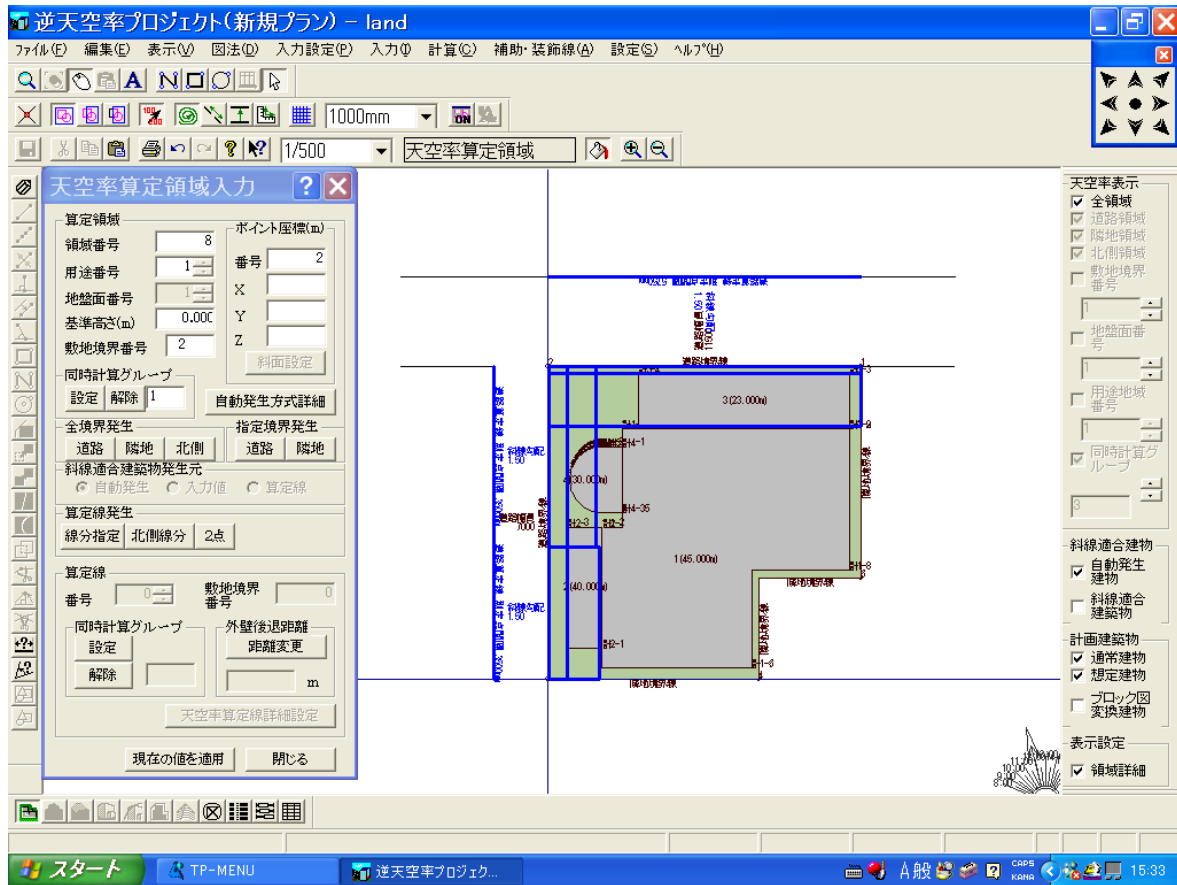
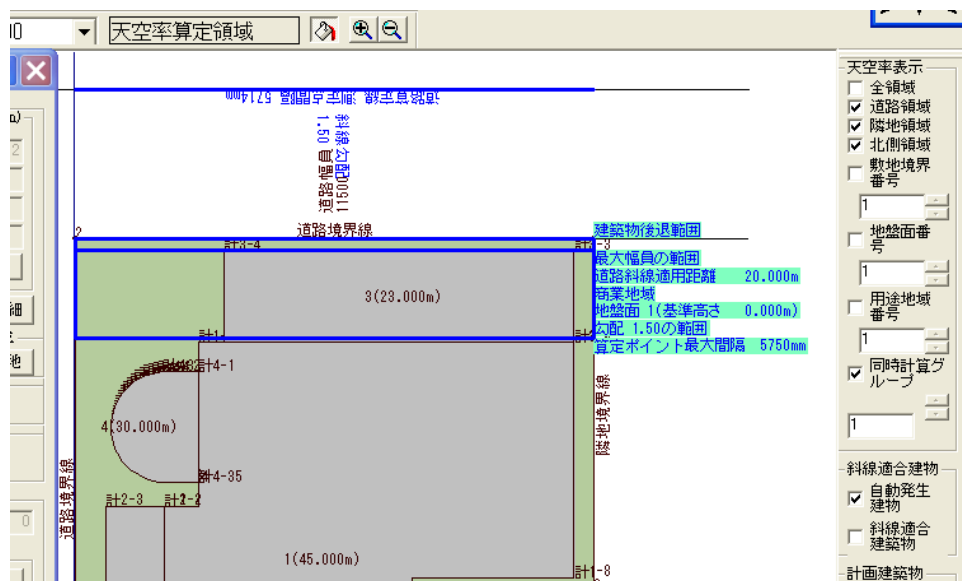


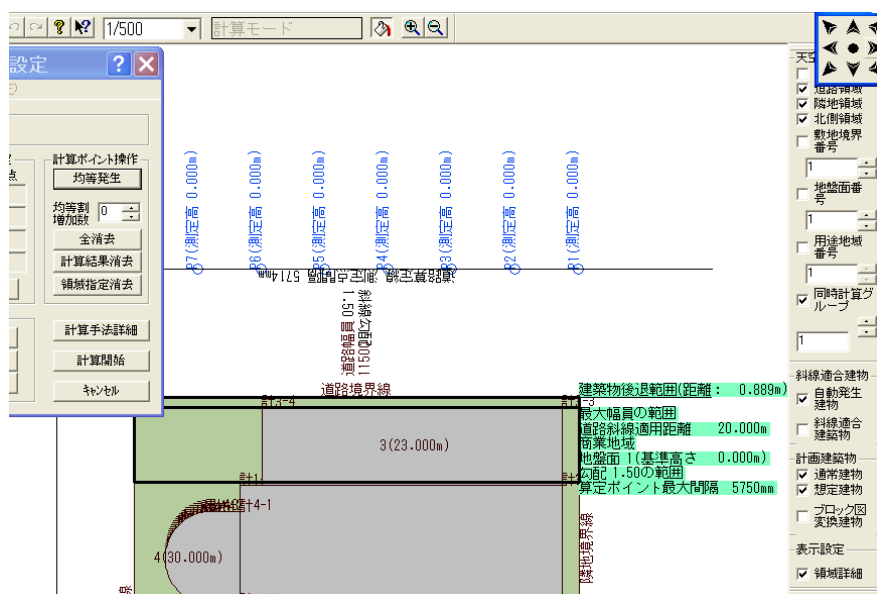


適合領域の発生根拠、詳細表示機能

TP-PLANNER の天空率計算において適合建築物および領域は法解釈を行い自動発生します。その際、2 方向以上の道路が接道する場合「2A かつ35m以内」、傾斜道路の場合、あるいは用途地域が複数にまたがる場合など自動算出されたその適合領域の発生根拠の可否がにわかに判断する事は設計者にとって困難な場合があります。さらにセットバックが設定された場合その領域の可否はさらに煩雑になります。その為その発生根拠を明確にする為に「領域詳細」を表示する機能を付加しました。「入力」「天空率拡張データ」「天空率算定領域」と「計算」「天空率」「逆天空率」「天空率算定チャート図」において「領域詳細」の表示を行う事が可能です。本解説は「領域詳細」の発生方法と非表示の方法を道路高さ制限適合建築物の例で解説します。隣地の場合も同様に行う事が可能です。

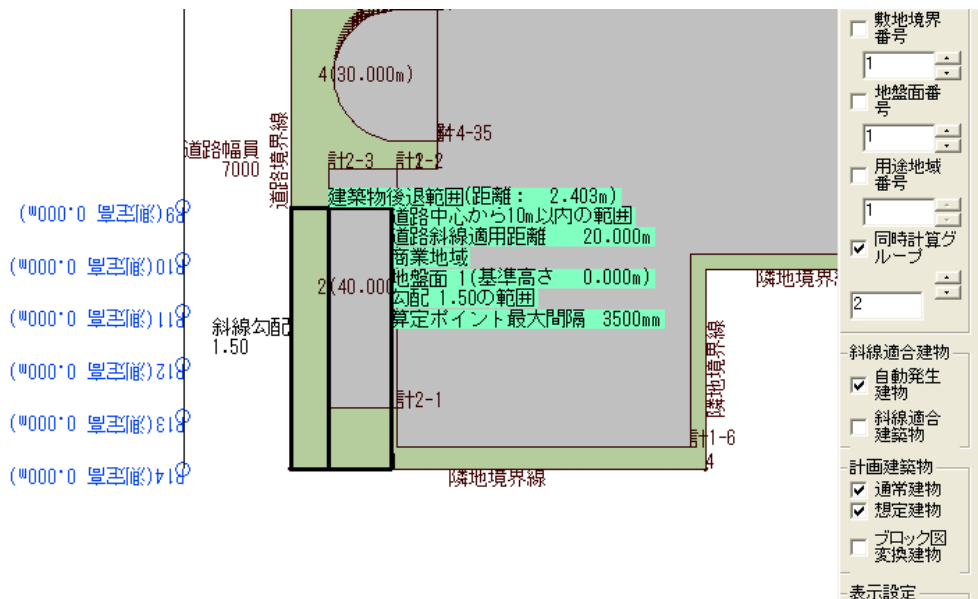


「入力」「天空率拡張データ」「天空率算定領域」における領域詳細表示は画面右側「天空率表示」「全領域」のチェックを OFF し「同時計算グループ」の NO ダイアルをクリックし任意の領域をクリックします。領域指示と共に適合領域の右上側に「領域詳細」を表示します。

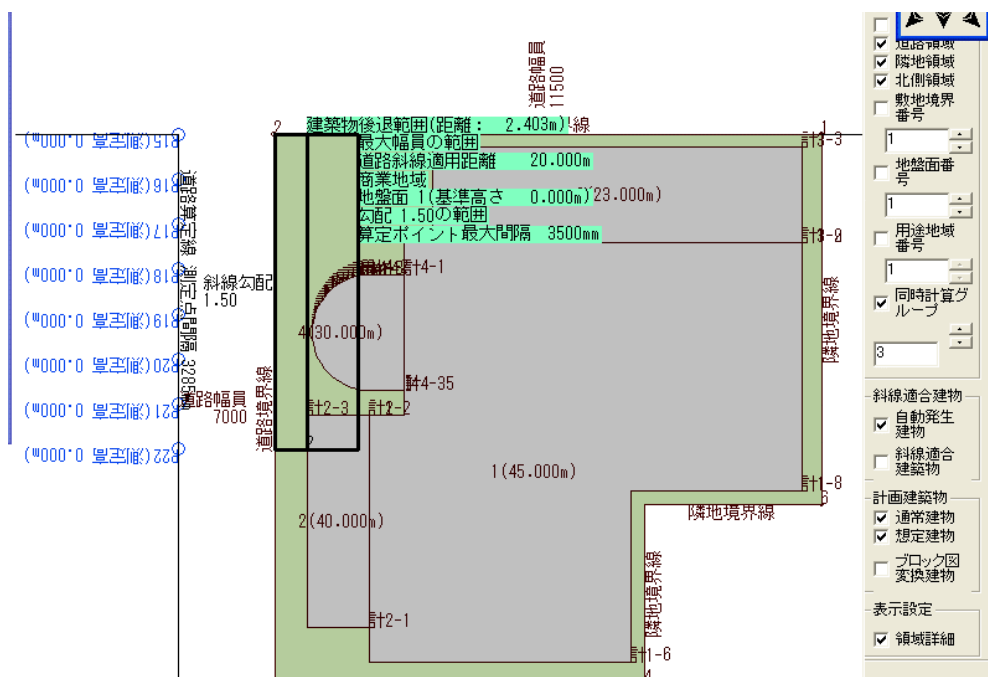


「天空率」計算時は入力時に表示されない「建築物後退距離」が追加表示されます。

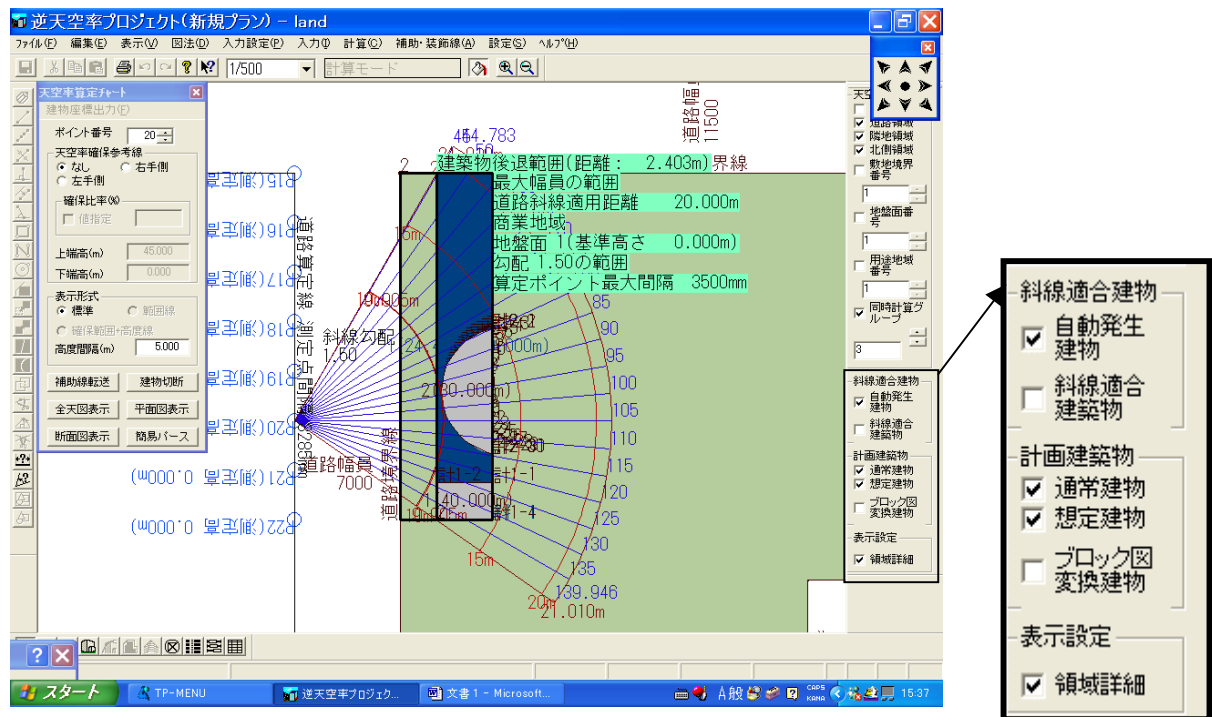
領域の表示は「建築物後退範囲」と法解釈された領域この場合「最大復員の範囲」に 2 分され表示します。この場合2方向道路の最大幅員の領域となる為その様に表記されます。「適用距離」「用途地域」、「地盤面高さ」「勾配」は領域を適合領域を区分する要素となる為表記します。「算定ポイント最大間隔」は前面道路の幅員の半分を表記します。算定線上では実際に均等分割された算定間隔が表記されます。適合領域の前面幅で均等分割される為に一般的に「算定ポイント最大間隔」より小さく表示されます。(幅員の半分以下の均等であれば可です。)均等に分割されない場合算定間隔は倍精度(15桁)で計算し保持します。ただし表記はmmまでの表記になります。(mm以下は切り捨て表示)



この場合2A の領域をこえた「道路中心10m以内」の領域であることを表記しています。



この場合最大幅員の2倍の範囲になります。算定ポイントの最大間隔は前面道路幅の7000 mm の半分 3500mm を表記しています。



「領域詳細」は天空率チャートを表示する場合にチャート図と重なり見づらくなる場合があります。その際は「天空率表示」の最下段「領域詳細」のチェックを OFF にすると表示されません。

